秋田栄養短期大学・学修目標への到達度セルフチェック調査報告書（令和7年度）

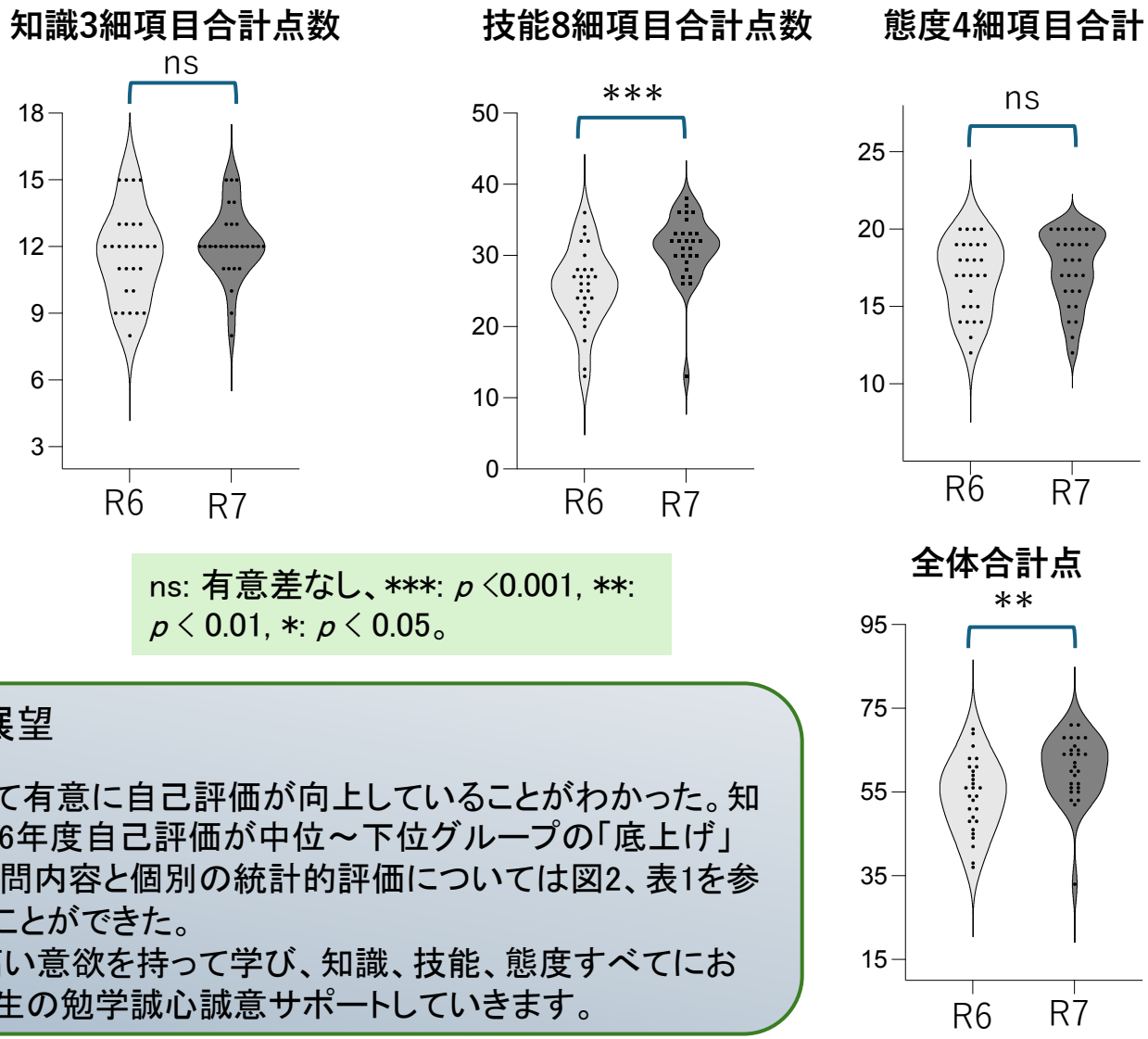
本調査の目的

- 本調査は、**秋田栄養短期大学栄養学科の教育の更なる充実のため**に秋田栄養短期大学が策定している学修目標への到達度を調べた。
- 学生自らが点数化した学習目標へのセルフチェックから、令和6年度入学者28名（女子23名、男子5名）を対象に令和6年7月（令和6年度前期末）及び令和7年9月（令和7年度前期末）の知識（3細項目）、技能（8細項目）、態度（4細項目）を定量化して経時的変化を調査した。

調査方法

- 学生が提出したセルフチェック用紙の知識、技能、態度について、それぞれの各細項目の点数から合計点を求めた。また全体の合計の合計点数は、知識、技能、態度それぞれの点数を合計した。
- R6からR7での自己評価点向上の有無を、ペアデータを解析するノンパラメトリック法の一種Wilcoxon matched-pairs signed rank testにより検討した。$p < 0.05$のとき統計的に両年間で有意な変化があると判定した。統計解析とグラフ作成にはGraphPad社Prismを用いた。

図１：R6年度前期終了時とR7年度前期終了時の各評価細項目合計点の比較



ns: 有意差なし、***: $p < 0.001$, **: $p < 0.01$, *: $p < 0.05$。

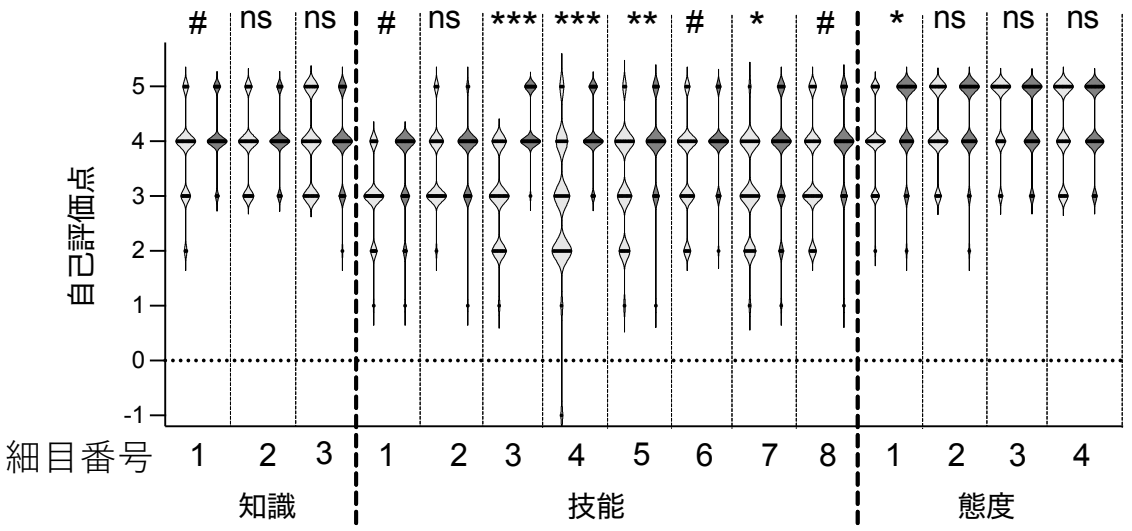
調査結果及び今後の展望

- R6年度とR7年度の調査を比較すると、技能合計点、全体合計点において有意に自己評価が向上していることがわかった。知識、態度の合計点については統計的有意には到達しなかったものの、R6年度自己評価が中位～下位グループの「底上げ」がなされている様子が点数分布から見て取れた（図1参照。各細目の質問内容と個別の統計的評価については図2、表1を参照のこと）。このことは図2（各細項目ごとの評価）からも明確に読み取ることができた。
- 本調査の結果から秋田栄養短期大学の学生は、栄養士になるために高い意欲を持って学び、知識、技能、態度すべてにおいて成長を自覚していると言える。本学教職員一同は、これまで同様学生の勉学誠心誠意サポートしていきます。

表1：各細目ごとの質問内容

大分類	細目番号	質問項目
知識	1	健康と栄養の関係についての基本的知識を身につける。
	2	各科目の基礎的な事項について理解する。
	3	他の科目と関連付けて理解することができる。
技能	1	必要な事項を、口頭や文章で明確に表現することができる。
	2	食品の栄養などの分析に関する基礎的な技術を身につける。
	3	給食運営に係る技能を身につける。
	4	献立作成能力を身につける。
	5	他者への衛生の指導ができる能力を身につける。
	6	主体的に課題を発見し、解決できる能力を身につける。
	7	調理技術を磨き、現場で指示できる能力を身につける。
	8	さまざまなリテラシースキルを身につける。
態度	1	栄養士としての使命感を持ち、食と栄養の面から社会に貢献しようとする意欲と態度。
	2	対人コミュニケーションスキルを高めようとする態度。
	3	自分自身の衛生管理を徹底する態度。
	4	栄養に関する知識・理論を学び、より深く問題を探求しようとする態度。

図2：R6年度とR7年度の各評価細目ごとの比較



薄いグレーがR6年度、濃いグレーがR7年度の得点分布を示す。
ns: 有意差なし、***: p <0.001, **: p < 0.01, *: p < 0.05。p < 0.1 のときについても「傾向あり」とみなし、#で表した。